

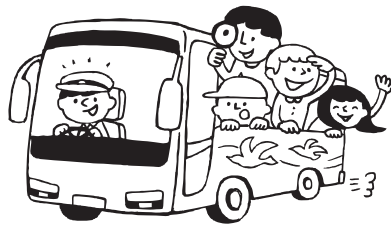


6年目の被災地を

めぐるバスツアー

— 荒浜・野蒜・石巻 —

2017年2月25日(土) 10:00~16:30



SMMA 見験楽学ツアー



【発行・連絡先】

仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局

〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1(せんだいメディアテーク内)

TEL 022-713-4483 / FAX 022-713-4482

E-mail office@smt.city.sendai.jp

SMMA
SENDAI MIYAGI MUSEUM ALLIANCE
仙台・宮城ミュージアムアライアンス

持ち物リスト

- ◆歩きやすい靴
- ◆飲みもの
- ◆暖かい服装
- ◆雨具
- ◆筆記用具



注意事項

- ◆大きな声で話すなど、地域の方に迷惑となる行為は謹んでください。
- ◆ツアールートには、舗装されていない道などもありますので十分注意し、各自責任を持って行動してください。特に、歩きながらのスマートフォンは大変危険ですので控えてください。

MEMO



MEMO

Handwriting practice lines consisting of 22 horizontal lines.



見験楽学ツアー 04

6年目の被災地をめぐるバスツアー

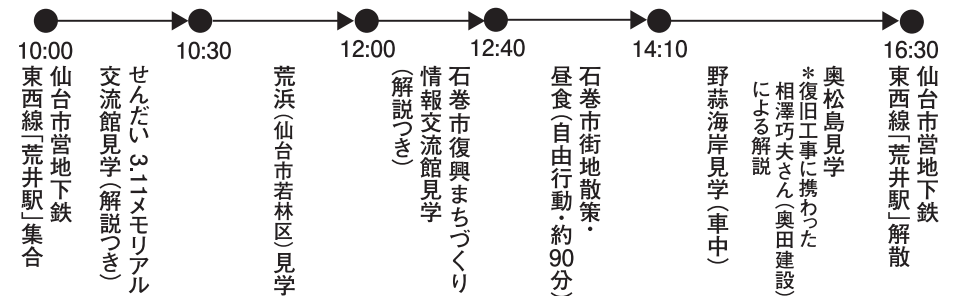
— 荒浜・野蒜・石巻 —

あの日、地震と津波に襲われた町は、かつてどんな町だったのでしょうか。どんな被害を受け、6年という年月の中で、景色はどのように変わったのでしょうか……。このツアーでは、仙台・石巻それぞれの震災メモリアル施設のスタッフがご案内いたします。野蒜・奥松島では、復旧工事に携わった方の解説があります。また石巻では、ご当地グルメやショッピングもぜひお楽しみください。これは6年目の被災地の今を、五感で感じていただくバスツアーです。

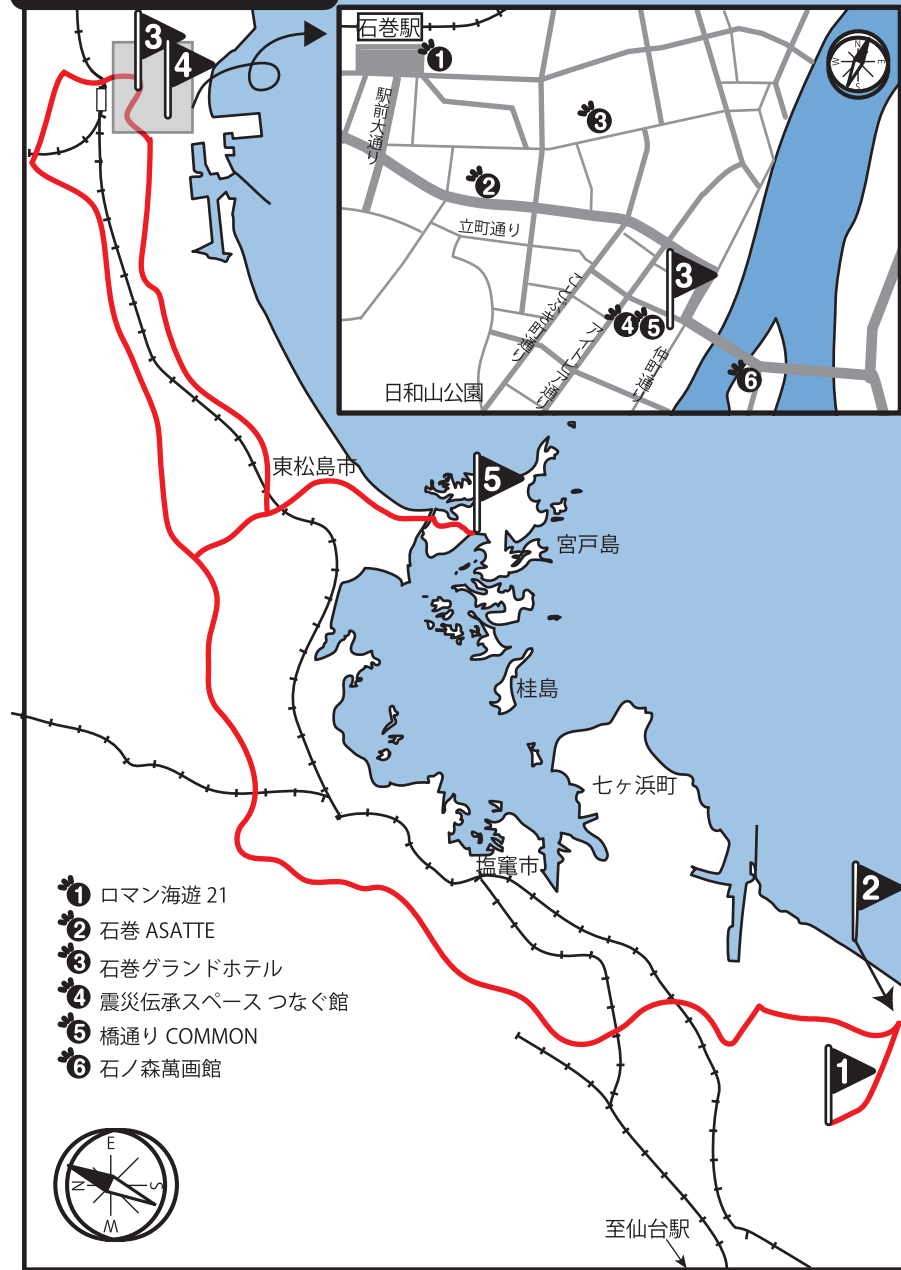
案内人 飯川 晃 (せんだい3.11メモリアル交流館職員)

宮城県仙台市青葉区本町生まれ。宮城野区在住。2005年宮城大学大学院事業構想学研究科修了。総務省の外郭財団「地域創造」職員を経て2008年より仙台市市民文化事業団職員。震災当時は仙台港近くの自宅マンションに津波が到来するも無事だったが、その後続く8F⇔1Fを階段で往復する日々閉口する。趣味は友人とラーメンを一から作るワークショップを年に一度実施する事。

コース



ルートマップ



MEMO



見どころ

3

石巻市復興まちづくり情報交流館

石巻市復興まちづくり情報交流館中央館は、2015年3月にオープンした石巻市の施設です。東日本大震災の最大の被災地として、その教訓を未来永劫に忘れる事なく伝承する為、震災前後の市内の様子を写真展示・復興事業の進捗状況・市内中心部の未来予想図のジオラマ・DVD等の映像を通じて、石巻の過去、現在、そして未来を紹介しています。また、市民同士と来訪者との交流や懇談の場として交流スペースもあります。

4

石巻市街地散策・昼食

石巻はおいしいご当地グルメが沢山！目玉焼きが特徴的な石巻焼きそばはB級グルメの代表格ですが、今が旬の海産物も魅力的ですね。見学させていただき復興まちづくり情報交流館の隣には「橋通りCOMMON」という屋台村があり、魅力的なお店が軒を連ねています。また、港町ならではのお寿司や、ラーメン大好きな案内人は、昔ながらのラーメン屋さんを訪ねたいと申しております。町の佇まいを楽しみながら、ぜひ素敵なお土産も探してみてください。



5

奥松島と復興事業

相澤さんが宮戸島の復旧工事に携わったのは2016年4月からでした。前の工事でのスローガンは「一日も早い復旧を」でした。奥松島に赴任する前は70万時間連続無災害の記録を誇っていた相澤さんも、宮戸島では色々の制約の元で施工せざるを得ない状況でした。思い通りに行かない工程を、それでも早く復旧したいと思って頑張っていました。地元の方は「せっかく復旧しても、私達はもう歳だから農業辞めたの」と言うのです。

POINT

宮戸島は環境保全が厳しく、木を切ったり現況を変えたりする事はたとえ災害復旧工事でも許されませんでした。軽トラックも通れない現場の状況で取った対策とは？



仙台・宮城ミュージアムアライアンス (SMMA)

仙台・宮城地域のさまざまな博物館が共通の知的資源として協働することで、地域にとってより有益な機能を獲得していくための共同事業体です。各館の学芸員や専門職員が持つ知識やノウハウを蓄積し、分野を横断した連携イベント、学校教育への協力や地域で活動する人材の育成支援、観光資源の開発など、単館では実現困難な新たな価値の創出を行い、地域のニーズに合った新時代のミュージアムとなることを目指して活動しています。

www.smma.jp

SMMA参加館

社会福祉法人共生福祉会 福島美術館



仙台の実業家・福島家3代が収集した作品約3000点を収蔵。伊達家旧蔵品、宮城県や福島家に縁のある作品を元に企画展を開催します。

仙台うみの杜水族館



豊かな日本の海や自然環境を体感できる大水槽、海の生きものたちによる東北最大級のパフォーマンスなど様々なコンテンツを有する水族館です。

せんだい3.11メモリアル交流館



東日本大震災の記憶と経験を媒介に、コミュニケーションを通じて知恵と教訓を紡ぎだし、未来へ、世界へとつないでいく拠点です。

スリーエム仙台市科学館



緑豊かな台原森林公園内に建ち、自然史系、理工系、生活系の3つの展示室のほか、岩石や植物の屋外展示もあります。

仙台市縄文の森広場



山田上ノ台遺跡で発掘された縄文時代のムラを、植生環境とともに復元しています。土器づくりなどの体験活動を実施しています。

仙台市天文台



口径1.3mの「ひとみ望遠鏡」やプラネタリウム、天文展示室等を備えた総合天文博物館です。

地底の森ミュージアム(仙台市富沢遺跡保存館)



富沢遺跡から発見された2万年前の人間の生活跡と森林跡を保存し、公開しています。

仙台市博物館



伊達家寄贈文化財をはじめ、仙台に関わる歴史・文化・美術工芸資料等を収蔵し、常設展では随時約1,000点を展示しています。

仙台市八木山動物公園



世界各地に生息する約500点の動物たちを飼育・展示している東北最大の動物園です。

仙台市歴史民俗資料館



県内最古の洋風木造建築である旧陸軍兵舎を利用し、明治時代以降の仙台の歴史と人々の暮らしを紹介しています。

仙台文学館



明治以降の郷土ゆかりの文学者、土井晩翠や島崎藤村をはじめ、井上ひさし初代館長や現在活躍中の作家を紹介しています。

せんだいメディアテーク



図書館、ギャラリー、スタジオ、映像音響ライブラリーなどの機能を備えた、市民の美術や映像文化の活動拠点です。

東北学院大学博物館



東北学院大学の歴史・文化に関する研究成果をもとに、様々な展示・企画を行う大学博物館。学芸員養成の場としての役割も担う。

東北大学総合学術博物館



大学の研究者たちが世界中から集めた珍しい化石や鉱物、土器や石器、骨格標本、有孔虫、サンゴなどを展示しています。

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館



人間国宝(型絵染)で日本を代表する染色工芸家芹沢銈介の作品と、氏が収集した世界の工芸品を紹介しています。

東北福祉大学・鉄道交流ステーション



東北福祉大学が運営する駅前の鉄道資料館。鉄道をテーマにした企画展と模型館を中心に広く一般の方にも大学をご利用いただけます。

見どころ

1 せんだい3.11メモリアル交流館

東日本大震災を知り学ぶための場であるとともに、津波により大きな被害を受けた仙台市東部エリアへの玄関口として、2015年12月に地下鉄東西線開業とともにオープンしました。交流館が立つ仙台東部エリアには、震災以前から受け継がれてきた地域文化があります。その自然とともにある暮らし方の中には、未来へと伝えるべき知恵があり、その豊かさを感じていただくための企画展やイベント展開を図っています。

POINT

交流館入口にあるメダカの水槽には隠れたエピソードがあります。また、発展著しい南口の景色と、田園風景の広がる北口のコントラストにも注目！

2 荒浜・祈りの塔

祈りの塔は、東日本大震災の犠牲者への慰霊と鎮魂のため、荒浜自治会と七郷連合町内会により建てられ、2013年3月11日に建立式が行われました。荒浜地区を襲った津波とほぼ同じ9mの高さで、右手の慰霊碑には犠牲者192名の名前が刻まれています。また、荒浜地区は約2,000人の方が住んでいた地域で、災害危険区域に指定されたことから帰住は叶いませんが、海岸清掃やおふるまい等のイベントを通じた交流で、人々をつなぐ活動を続ける方もいます。

